

免許は・ない



紋別医師会
雄武町国民健康保険病院

しゅう け ひろ み
秀 毛 寛 己

医師免許のことではない。運転免許のことである。

学生時代に友人たちは、ほぼ全員と言っていいくらいに入学と同時に一年次に自動車学校へ通い込んだ。興味がなかったわけではないが、積極的でもなかった。

自動車学校での話がいつも話題に上り、仮免とか路上教習とかまた当時はすべてマニュアル車だったためロー、セコ、ニュートラル、バックとか言いつつエアギアチェンジしながら復習してる姿をよくみかけた。「ぼくもいつてみようかな」というと大抵どの連中も「やめとけ。おまえには絶対とれない」なぜかと聞くと「おまえはけんかっ早すぎる。教官とけんかして免許なんか無理だ」と、当時の自動車学校の悪名高い教官から受けるシゴキの話をひとしきり。それをぐっと我慢しなければならないとのこと。人間の屑みたいに言われてもがまんしてるらしい。そんな理不尽なことまでして取る気もさらさらなく免許はあっさりあきらめた。

学生時代は不思議と誰かの車でちゃっかり用事が足せて車には困ることもなかった。

就職も同じく縦社会の医局は自動車学校と同類だと考えていきなり何も考えずに大阪の非公立病院に就職した。

大都会の中ではマンションの賃貸料よりガレージ代の方が割高で、地下鉄が発達しているため車など無用の長物に思えた。ところが、まさかの北海道に移住してからは事情が大きく変わった。離島ですら車がないと生活できないので、ペーパードライバーだった妻は運転の練習を始めた。自分はあいかわらず無免許のまま取得しようとも思わずもっぱら助手席でうるさいから黙っててと言われながらあっちこっちと指図していた。

当時から携帯電話が一般化し始め、当初は病院からあてがわれたものを持っていたが自分のが欲しくなり札幌の某家電店に行き、これと言って購入しようとするすると運転免許証の提示を求められそんなものは持ってないという怪訝な顔をされ、ではパスポートお持ちですかとかハードルの高いことを言う。旅行は嫌いで持ってないといって警察医会の写真付き身分証を出したがあっさりと却下され、医師会の身分証も同じく却下。海外旅行せず車の運転もできなければ人でないのか？

頭にきておかしいじゃないかと気色ばみかけた

ら、横から妻が運転免許証を出した。それですんなり購入となったが気分が収まらない。妻に買ってもらわなければ携帯電話も持てない屈辱感と警察と医師会の威厳はまちの電気屋さんでは子供が作った偽札のように通用しない事実を知ったことはショックだった。それからつまらぬトラブルを回避するのめんどくさいので、あきらめてスマホも扶養している妻に買ってもらった。

自分が自分だと証明するのにまず運転免許証をお見せくださいと普通に言われる。ないと言うと不思議な顔をされ普通の客でないような門前払いを受ける。免許がなくてもどんな車でも簡単に買える事実のほうがはるかに不思議だが、日医の医師資格証提示でもスマホは買えない。実は、その資格証の更新カードを受け取るのに郵便局に行くと「証明となる顔写真付きの・・・」そのあたりで切れてきて旧カードを出して交換だよといっても運転免許証かマイナンバーカードとか持ってないものの提示を言われ、ばかりしくなって局員から封筒を奪い取るようにして中身を出し、新旧並べてみせた。これでいいでしょうと。

なぜこんな目に合わなければならないのか本当に妙な世の中だと思う。こういう経験がいろいろあって自分は自分と証明するために。

最近、マイナンバーカードを仕方なく申請所持した。これで運転免許証所持のない自分もやっと一般‘人’として認められ不愉快な時間のロスも減るのだろうか。

昨今マイナンバーカードの種々のトラブルもニュースとなっており若干気がかりではあるが。

